

佐賀市教育委員会 様

学校名 佐賀市立西与賀小学校

校長名 大木 貴博



平成30年度教育課程について(届出)

このことについて、佐賀市立小・中学校の管理運営に関する規則に基づき下記のとおり届出します。

記

1. 学校の教育目標

I 学校経営の基本理念

学校教育の使命：『自分らしい生き方ができる子』の育成にある。

- 1 生きる力を培う “愛（自他を愛する），責任（反応する），恕（人の役に立つ）”
- 2 心づくり・学びの構えづくりを基礎とした確かな学力づくり
- 3 “ふるさとを愛する人づくり” ～心のふるさと教育～
- 4 “授業力” “組織力” “学校力” “人材育成” のチーム西与賀のスタイルづくり

II 学校経営方針

1 学校教育目標

「自ら学び、共に生きる西与賀っ子」の育成

2 目指す学校像 “あいうえお” で取り組む学校

- あ…「あいさつ」が響き合う学校
- い…「いのち」を大切にする学校（いじめのない学校）
- う…「うつくしい」学校（心の美、くつ箱等の整然美）
- え…「えがお」いっぱい学校
- お…「おもいやり」があふれる学校

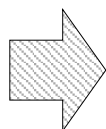
3 西与賀小が目指す子ども像と合い言葉

目指す子ども像 “人を愛し、人の役に立つ喜びを感じ、ふるさとを愛する子ども”

（自分らしい生き方ができる子）

「西与賀っ子」の合い言葉

- 明るく共生する子ども（心づくり）
- かしく創造する子ども（知づくり）
- たくましく伸張する子ども（体づくり）



- ①…ここにこあいさつする子（心づくり）
- ②…しっかり勉強する子（知づくり）
- ③…よるこんで働く子（心づくり・体づくり）
- ④…からだをきたえる子（体づくり）
- ⑤…こころをみかく子（心づくり）

4 目指す教師像

- Ⓓ ていねいに (子どもに学び, 子どもとともに成長する)
- Ⓔ 笑顔で (人間性豊かに, 優しさ厳しさをそなえる)
- Ⓐ あきらめずに (高みを目指し, 挑戦する)
- Ⓜ みんなで (情報を共有し, 組織で取り組む)

5 西与賀小の教育活動基本方針

- (1) 明るく共生する子どもを育てる「心の教育の推進」
- (2) かしこく創造する子どもを育てる「確かな学力向上の推進」
- (3) たくましく伸長する子どもを育てる「健康教育の推進」
- (4) ふるさとを愛し、地域と共に成長していく子どもを育てる

「開かれた学校づくり (市民性を育む教育) の推進」

2. 本校の教育の特色

- 1 本校は田に囲まれ、自然環境に恵まれています。校区の西側は本庄江に接し、のりやかまぼこなどの産業も盛んです。このような地域をよく知り、地域へ愛着を持つために、地域をフィールドとした学習活動を数多く展開しています。総合的な学習の時間では、教科の学習や学校行事等と関連させて、課題発見から課題解決活動や探求活動の場を多く取り入れ積極的に発信する自主的自発的な活動を促しています。
- 2 本校が目指す特別支援教育は、子ども一人ひとりの教育的ニーズを把握し、その教育的ニーズに応じた適切な指導・支援をきめ細かく行うことです。そして、この指導・支援は、「確かな学力の向上」や「豊かな心」の育成に資すると共に、学校教育が抱えている「いじめ」などの問題の解決とそれらの予防及び早期発見に極めて重要な役割を担うものであると考えます。このような基本的な考えに基づき、平成20年度からは、特別支援教育の視点を取り入れた「集団作りと学力保障」の実践研究に取り組んでいます。また、平成22年度からは、これまでの特別支援教育の実践の上に、一人1台のタブレットをもつという環境を生かし、ICTを活用した「学力の向上」に取り組んでいます。
- 3 朝の時間帯を活用した読書活動やICTを活用したスキル学習、日常の言語活動を活性化、算数科学習におけるチームティーチングや少人数指導等のきめ細やかな指導の継続により、基礎的学習内容の定着を推進しています。
- 4 西与賀小の子どもを見守る会による児童の登下校の安全確保、JA による農業体験等、それぞれのコミュニティを中心とした地域の学習活動への温かい協力を支えられています。
- 5 幼稚園・保育園から小学校へうまくつながるように、また、小学校から中学校へとスムーズに進学できるように幼稚園、保育園、中学校との計画的な連携会議や情報交換を機会あるごとに行っています。
- 6 平成29年度より、学校運営協議会を設置しコミュニティ・スクールとなり、「学校・家庭・地域が、自分らしい生き方ができる子」の育成を共に目指している。また、開かれた学校づくりを推進し、地域の「人・もの・こと」を教育課程の中に積極的に取り入れて教育の質の向上を図っている。
- 7 平成29年度より佐賀大学教育学部代用附属小学校となり、次世代の教育を担う人材の養成に関わるという自負と責任をもち、教育活動と研究にあたる。

3. 教育計画

(1) 本年度の教育の重点

平成30年度の教育の重点

- (1) 「心づくり」・・・心の教育の推進
 - 心の教育の推進と規範意識の醸成（愛，責任，恕）
 - 落ち着いた学校生活の醸成（くつそろえ、あいさつ）
 - 「いじめ・命を考える」取り組み、ふれあい道德の充実
 - 特別支援教育の推進

- (2) 「知づくり」・・・確かな学力向上の推進
 - 「知・心・体づくり」を中心に据えた校内研究の実践を通じた指導力の向上
 - 学習習慣・生活習慣の定着…城西校区の小中連携、小小連携
[文教校区 城西本気学園]
 - ICT機器の活用やTTによる指導の充実を図り「楽しく・わかる授業」を通じた確かな学力の向上（ICT機器の活用を学校の伝統・文化としての位置づけ）
 - 読書を通じ、本に親しむ子どもの育成 ～心の栄養，知づくりの推進～

- (3) 「体づくり」・・・健康教育の推進
 - 健康教育・食教育の充実

- (4) 「地域・家庭と共に歩む学校づくり」・・・開かれた学校・教育課程づくりの推進
 - 開かれた学校づくり、市民性を育む教育の推進
 - 「コミュニティ・スクール」の取組
 - ・学校運営協議会の運営
 - ・西与賀コミュニティの活用
 - ・当事者意識の確立

～本校のキャッチフレーズ～

☆「学校」で学び、「家庭」で育ち、「地域」で伸びる「西与賀っ子」～子どもへのまなざし運動～☆



「学校経営」充実のための重点ポイント

1 落ち着いた学校生活	2 学力向上	3 開かれた学校作りの推進
<ul style="list-style-type: none"> ○ 朝のあいさつ (心が通う挨拶) ○ くつそろえ (靴が揃えば心が揃う) ○ 日々の掃除の徹底 (こころ磨き) ○ 廊下歩行、 休み時間の過ごし方 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「知・心・体づくり」を中心に据えた 校内研究の実践を通じた指導力 の向上 ○ 学習・生活習慣の確立 ・文教校区 城西本気学園、 PTA との連携 ○ ICT機器の活用 ・「楽しく・わかる授業」の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の人やもの、ことを 生かした教育の充実 ○ 「コミュニティ・スクール」の取組 学校と保護者・地域と共に協働 し、子どもたちの豊かな成長を はぐくむ組織として 「地域とともに子どもを育てる開か れた学校づくり」

(2) 佐賀市の特色ある取組について

① 幼保小中連携の取組

幼保・中学校とのスムーズな接続の推進を図る。

(1) 幼保園児と児童との交流

- 1年生児童による「おもちゃ大会」「はやくおいでよ1年生」の開催

生活科の学習の中で、年長児を対象とした手作りおもちゃで遊ぶ会や学校体験を実施します。

- 3年生児童による「お話キッズ」の読み聞かせ

3年生の総合的な学習の時間に、幼稚園や保育園への読み聞かせ(お話キッズ)の活動を行います。

- にしよか文化祭での発表

にしよか文化祭では、幼稚園、保育園、小学校、中学校の子どもたちの発表の場を設けて、互いの活躍を認めあえるようにします。

(2) 中学校体験と生徒との交流

- 体験授業と部活動見学(夏休み、11月)

中学校の入学説明会の取り組みを通し、中学教師による体験授業・部活動参観を行います。

- 中学校教師による出前授業(2月ごろ)

(3) 教員の研修と情報交換

- 研修会への参加

佐賀市教育委員会こども課指導主事による「ソフトプログラム」の研修を受け、情報交換に務めます。

夏季休業を利用し、校区の保育園・幼稚園の保育参観をし、保育の様子や子どもの見取りについて学びます。

- 中学校区(城西中、本庄小、西与賀小)の全職員による課題別研修や情報交換会の実施。

[城西本気学園]

- 「自学がんばる週間」の実施

城西校区三校で、「自分の夢の実現に向かって、よく考え、力強く行動していく子ども」という目指す子ども像を設定した。今年度も城西本気学園の共通の取り組み、「自学がんばる週間」を実施し定着させていきます。

- 情報交換会の実施

・入学式の前と後に1年担任が必要に応じて、入学する児童の幼稚園や保育園を訪問したり、連絡を取ったりして、情報交換をし、児童理解を図り指導に役立てます。

・6年担任と中学1年担任との情報交換会を3回以上(6月、8月、3月)行います。

(4) なめらかな接続を目指した指導

- 「えがお わくわく」の活用

「えがお わくわく」の指導事例を活用しながら、集まる場などを考慮に入れた学習指導を実施します。

② 「いじめ・いのちを考える日」の取組

いのちを大切に作る学校・いじめのない学校

- (1) 毎月 いじめ・命のアンケートの実施と活用。(児童と保護者へ)

- (2) 学期ごとの人権集会による人権意識の高揚。PTAと連携した人権教室における保護者への人権意識の啓発

(「人権ふれあいコンサート」等、公民館との連携)

- (3) 体験活動を多く取り入れ、教育課程全体を見据えた道徳授業の計画及び実践。

- (4) 各学年に応じた情報教育モラルの計画的な指導。

- (5) たてわり活動などの充実。(遊び・学校行事)

- (6) ふれあい道徳の実施(授業参観)

- (7) 学期の初め、または必要に応じて佐賀市一斉のレインボー作戦である「いじめゼロ宣言」を実施

③市民性をはぐくむ取組

「地域・家庭と共に歩む学校づくり」…開かれた学校づくりの推進

(1) 各学年ごとに地域の方をゲストに又は地域の方の協力を得て、授業や行事を行います。

1年生…「むかし遊び交流会」を通して、地域の方と交流し地域への所属感を育む。(生活科)

2年生…西与賀町の探検を通して、地域の方と交流し地域への所属感を育む。(生活科)

3年生…いちご狩り体験、農業ハウスの見学、町の歴史調べ学習などを通し、西与賀町の人や地域の豊かさを発見する。(総合的な学習、社会科)

4年生…年2回(7月、3月)、町内の公民館に出かけ地域の方々と交流し、地域理解を図る。(総合的な学習)

「ふるさと学習支援事業」を活用し、浄水場見学や清掃工場見学を行うことで、ふるさと佐賀の環境を大切に思う心情と実践力を育む。(総合的な学習、社会科)

5年生…JA 西与賀の協力を得て、米作りなどの農業体験をしたり、調べ学習をしたりして、食と農の大切さを学ぶ。(総合的な学習、社会科)

6年生…西与賀町社会福祉協議会と連携した「独居老人へのしめ縄プレゼント」や学校内での「ちょこっとボランティア」の活動を通して、地域や学校の一員として貢献することの大切さを学ぶ。(総合的な学習)

「ふるさと学習支援事業」を活用し、議会や裁判所、佐野常民記念館等の見学を行うことで、一市民としての自覚を芽生えさせるとともに、ふるさと佐賀を誇りに思う心情を育む。(総合的な学習、社会科)

(2) 地域行事(にしよか文化祭・夏祭り・町民体育大会等)で公民館と連携しながら、出番・役割・承認を計画的に行い市民性を育みます。(全学年)

また、にしよか文化祭での学習発表会とともに、高学年による「少年の主張」を行い、地域の一員としての自覚を高めていきます。

(3) 公民館主催の行事(通学合宿・ふれあいコンサート・親子料理教室 等)への児童の参加を奨励します。

なかよし・ふれあいロードの活用として、歩道が広がった学校北側の道路を西与賀地区でのふれあい通りとして位置づけ、保育園、公民館、地域団体と、更なる地域連携を推進します。

④「土曜授業」

(1) 土曜授業により増加した時数……4時間×5回=20時間

(2) 増加した時数の活用について

- ・土曜日にも通常授業の実施し基礎・基本の学習を徹底することで学力向上を図る。また、高学年の外国語、中学年の外国語活動の時間の一部としても活用します。
- ・学校行事やPTA行事を土曜日に設定することで、月曜日から金曜日までの授業時数を確保し、平日にゆとりをもった学習計画を行います。
- ・水難訓練や水泳学習参観、授業参観などを設定することで保護者の参加を促し、保護者の学校への理解促進を図ります。
- ・交通安全誓いの集会、地域の危険箇所確認等、地域との連携強化を図るとともに、ふるさと西与賀の一員としての自覚を育みます。

(3) 指導の重点11項目

・学力向上の取組

「知づくり」…確かな学力向上の推進

全国調査、県調査の結果をふまえ、本校の取り組むべき課題やその改善に向けて学力向上に取り組む

○ 授業づくりについて

- ・校内研究で学年や教科等のグループで協働的に研究を進め、授業実践を通して指導法の改善を図ります。
- ・学ぶ意欲を育む授業デザインを意図した授業実践を積み重ねていきます。また、板書カードの活用法やノートの取り方など、共通の取組を浸透させることで授業のUD化を目指します。
- ・各教科等において、子どもたちの思考力・判断力・表現力を身に付けさせるために、授業での効果的なICT機器の利活用法のあり方について模索するとともに、主体的・対話的で深い学びへと向かう単元開発・言語活動の充実を図ります。
- ・算数科を中心に習熟度別指導や少人数指導、発展的・補足的な学習など、個に応じた指導を取り入れます。
- ・基礎的・基本的な知識及び技能の向上を図るために、スキルタイム(週2回)や「すくすくテスト」(隔週の課後)を実施します。
- ・学習習慣や学習規律の定着をさらに図るために、「学習の約束」「話の聴き方・反応の仕方」等、全職員で共通理解を図るとともに、その意義や指導方法・内容についても共通実践へと高めていきます。そして、本校の学習文化を創り上げていきます。

○ 学習環境の整備

- ・年間4回の生活パワーアップ週間を設け、学級指導、個別指導、家庭との連携により、子どもたちのよりよい生活習慣・家庭学習習慣を育みます。(「早寝・早起き」「学習環境(場所・方法等)」「タイムマネジメント」)
- ・本校の学習のきまり(「かつおタイム」「机上の整え方」等)に基づく共通実践を進め、学習に臨む基盤を築かせます。
- ・年度初めの学級懇談等で保護者に「家庭学習の手引き」を配布し、家庭学習や学習の約束について説明する機会を設け、保護者とともによりよい生活習慣・家庭学習習慣づくりを目指します。

○ 読書の奨励

- ・低・中・高学年それぞれの年間貸し出し目標冊数を設定し、読書に親しませます。
- ・朝や授業の時間を利用したボランティアや教師による読み聞かせを通して良書に触れさせ、読書への関心を高めます。

・道徳教育(心の教育の充実)

「心づくり」…心の教育の推進

全教育活動を通して、真実を求め、人とのふれあいを大切にします。

- 年間授業時数を確保し、道徳の教科書や児童の実態にあった適切な教材を活用し、充実した道徳の時間にします。
- 道徳の授業を保護者や地域の人に公開し、道徳教育への理解を求めます。(「ふれあい道徳」)
- 地域や家庭と連携し、日常化を図るために、学校・学級便り、懇談などで、めざす子ども像を共有し、児童の道徳性・社会性の育成に努めます。
- 地域のお巡りさんに来ていただき、「防犯はがき」「交通安全はがき」などを児童に書かせたり、独居老人宅へ手作りのしめ縄を配布したりする活動を通して、思いやりの心を育みます。
- 言葉遣いに配慮した全教育活動での「心の教育」に努めます。
- 平成30年度からの教科化に伴い、年間指導計画や別葉を見直します。「考え、議論する」道徳科への転換を図り、授業を工夫します。

・特別支援教育の充実

- 配慮を必要とする児童に対して個別の支援計画、指導計画を作成し、全職員が支援の仕方についての共通理解を図り、学校全体として特別支援教育に取り組んでいきます。
- 毎月の教育相談協議会、必要に応じた校内支援委員会を開き、特別に配慮の必要な児童の実態について職員の共通理解を図り、職員で協力して対応します。
- ICTの利活用により、授業での視覚的支援を行い、学習理解の向上を目指します。
- 特別支援教育の研修会等を開催し、支援学級の児童たちへの理解啓発を図り、全校で支えあう友だちづくりを

推進します。

- 児童への支援の仕方、担任へのサポート内容を巡回相談やスクールカウンセラーなどを交えて考え、支援に役立てます。
- 支援学級合同の学習、さらに障害種に応じた自立活動や生活単元学習の授業について検討し、授業実践していき、特性がある児童一人ひとりのよさを伸ばす取り組みを推進していきます。
- 特別支援教育 CO を中心に、学校生活全体の UD 化を推進していきます(教室環境、学習の進め方、当番活動等)。そして、意見交換の場を設けながら、随時、改善・更新を図っていきます。

・生徒指導の充実

全教育の強化、そして社会への規範意識や適応力を育てます。

- 児童理解と非行防止
 - ・児童の実態把握をし、指導の見直しのための生活アンケートを行います。
 - ・月の初めを「いじめ・命について考える日」とし、「おしえてね」アンケートを実施します。気になる記述のある児童に対しては面談を実施し児童理解を深めます。また、日頃から子どもの変化を感じたときは向き合う時間を設定していきます。このような取り組みを積み重ね、いじめの未然防止・早期発見・いじめへの対処・再発の防止に努めます。保護者に対しては、毎月1回、アンケートを配布し、相談に応じる体制をとります。
 - ・家庭との連携を強化するために保護者への便りやPTA行事を活用します。
 - ・職員の共通理解の場を機会あるごとにもちます。
 - ・必要に応じてサポート会議を持ち、地域や関係機関と連携します。
- 危機管理(防災・安全・不審者対応・食物アレルギー等)
 - ・事故を想定した職員の対応研修を行います。
 - ・学級指導等で安全に気をつける指導を重ねます。
 - ・1・2年生は、教師の指導のもと、集団で下校します。
 - ・地域や保護者と連携をとり、児童の安全確保に努めます。
- 学校不適應児童への対処
 - ・年2回 QU アンケートを実施し、児童の実態把握とその対応について、全職員で支える意識に基づいた全校支援体制を整えます。
 - ・研修の機会を多くし、特別支援に関わる児童への対応を学習し、有効な支援の在り方を探ります。
- 日々の掃除の充実
 - ・整然とした中で、落ち着いた生活を送れるよう掃除は、「心の掃除」と位置づけ、無言掃除を通した、自分の心磨きとして取り組んでいきます。

・キャリア教育の充実

以下のような取組を計画し、一人一人の社会的・職業的自立に向けた能力や態度を育てていきます。さらに、コミュニティスクールとの連携を図りながら、内容と方法の充実を図ります。

- 地域の教育力を生かし、米作りの籾撒きから収穫までの体験活動をします。
 - ・籾まき ・田植え ・稲刈り ・収穫祭
 - ・大豆の栽培をします。
 - ・種まき・苗植え・収穫などの体験活動をします。
- 西与賀の農業施設、集荷場、工場等を見学します。
 - ・アスパラガスのハウス ・いちごの収穫 ・のり工場
- 秋のバス旅行で工場や市場の見学をします。
- 地域にある工場(野中蒲鉾)の見学(3年生)をします。

・人権・同和教育の充実

- 人権・同和教育の取り組み

- ・差別のない「和」の精神に満ちた明るい学校、楽しい学校作りを通して、人間性豊かな心身ともに健全な児童の育成に努め、教育活動全体の中で人権・同和教育を推進します。
- ・計画的に人権集会を実施し、全校で人権について考えます。公民館と連携し、人権コンサートに取り組みます。
- ・各クラスで「なかまづくりのめあて」を決め、互いに支え合う楽しい学級・学校づくりを目指します。
- ・道徳や学級活動の時間に「人権」に視点を置いた授業実践を行います。
- ・学級活動・学級の時間などでエンカウンター等を行い、人間関係力を育てます。
- ・たてわりでの活動やスポーツでの交流などで他のクラスや異学年の児童とふれあう機会を作り、交流を深めたり、広げたりします。
- ・人権週間の期間に、学年や学級で人権に関わる取り組みを行います。

○ 育てたい資質や能力

- ・「ありがとう」「ごめんね」「大丈夫？」などの「温かい言葉」が素直に言える子。
- ・自分のよいところに気づき、伸ばそうとする子。
- ・相手の立場に立って、考えたり発言したりする子。
- ・自分の考えを言い、他人の考えも尊重し認め合い、励まし合える安心した環境の中で協力して活動する子。

・男女平等教育の推進

- 学校教育の様々な機会を通して、男女が互いに人権を尊重し、その個性や能力を発揮できるようにする教育を進めていきます。
- 人権・同和教育、保健体育の年間計画の中に男女平等教育を位置づけて指導を行っていきます。
- 性に関する学習を行った時は、学級通信等で保護者にも知らせて啓蒙していきます。

・環境教育の推進

- 環境委員会やエコキッズを中心にして、給食委員会・美化委員会とともに環境教育の取り組みを全校児童へと広げ、継続していきます。
- 各教科、総合的な学習の時間で活用した環境学習内容を校内や校外に発信します。
- 全校でキックオフ宣言(5月中旬)をし、「環境の誓い～食べもの・水・電気・ものを大切にします～」の具現化へ向け、共通実践していきます。また、学期に1度、エコ会議を開き、実践の振り返りをし、取り組みの徹底を図ります。
- 各クラスに燃えるゴミ、ビニールゴミのごみ箱を設置します。また、クラスにごみの分別、節電、節水を呼びかけ、各クラスの環境への取り組みの活発化を図ります。
- PTAが主催している常時ペットボトル回収、ペットボトルキャップやアルミ缶回収を行っている城西中や本庄小への協力をを行い、環境推進に努めます。

・情報教育の充実

【本校の情報化に関する方針】

H29年度の校内研のテーマ

『自力解決に挑み、追求する児童の育成～学ぶ意欲を育む学習過程の工夫～』

- ・ICTを利活用した授業づくり
- ・学ぶ意欲を高めるためのICT利活用の在り方
- ・各教科等の系統性から見た基礎的・基本的な学力の育成につながるICTの利活用

【実施方法】

前述の教育の情報化における3つの側面を受け、以下の方法で実施します。

①情報教育

- ・情報社会に参画する態度を育成するために、昨年度作成した「情報モラル年間指導計画」を参考にし、道徳の時間を中心としながら各教科及び、特別活動、総合的な学習の時間等に情報モラルに関する指導を行います。
- ・『情報活用能力表』を参考に各学年の発達段階や実態に応じて情報活用能力を育む、単元計画を作成します。

②教科指導における情報通信技術の活用

- ・本年度の取り組みを次年度に生かすために、写真や実践事例等（指導案・デジタルワーク・提示用のプレゼンテーション等）の記録を残します。

⇒ICT実践事例集

- ・ICT機器の利用が授業の目的になるのではなく、各教科等の目標達成をしながら、学力の3要素（基礎的・基本的な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成、主体的に学習に取り組む態度の育成）を向上させるために、ICTの特長を生かした授業づくりを行うようにします。

⇒学びタイム、スキルタイム等の実践

③校務の情報化

- ・校務支援ソフトを活用し、情報を共有するなど、校務の負担を軽減します。

⇒月末統計、通知表、指導要録

- ・学校ホームページを活用し、職員で分担をして行事などの情報を発信します。

⇒学校ホームページの更新

・読書指導の充実

- 朝のさわやか読書を推進し、自選した本や読書生活カードの本をじっくりと読むよう読書習慣の充実を図ります。
- 読み語りボランティア(あしのご読み語り)による読み語りを定期的実施し、読書への関心を高めます。
- 豊かな心の育成として、全校での図書の本の貸出し冊数、年間3万冊を目指します。貸し出し数だけでなく、読書の質の向上も図るため、図書委員会の自主的な取り組み、全学級の児童を巻き込んだイベントを行います。
- PTA と連携して読書習慣の充実を図ります。「親子読書」を呼びかけ、「家読」を推奨します。「親子読書強化週間」を設け、保護者の意識を高めます。

・食に関する指導の推進

- 食に関する指導を計画的に行い、望ましい食習慣と元気な体・心作りをめざします。また、栄養職員と学級担任によるTT授業をし、食育を推進していきます。
- 給食試食会や給食参観、給食便り、給食献立委員会等を通して、保護者の食教育への関心を喚起します。

(4)教科及び教科等

<p>各 教 科</p>	<p>「知づくり」…確かな学力向上の推進 学ぶ意欲や基礎学力の向上、思考力・判断力・表現力向上のために工夫改善を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 一人ひとりを大切に学級作りに努めます。児童の意識や確かな学力の変容を全国や県の学力調査やCRT検査等で把握するとともに「楽しく・わかる授業」を通した確かな学力の定着を図ります。 ○ 学びタイムではICTを活用し、お互いの相乗効果による学習理解の広がりや深まりを図る協働教育に取り組めます。 ○ 算数科では、少人数やチームティーチングによるきめ細やかな指導形態を取り入れ、指導法改善を図りながら、児童一人ひとりの確かな学力の定着を図ります。また、ICTを活用し児童一人ひとりの認知の特性に応じた支援、そして、自ら課題を見つけ、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力の育成を図ります。さらには、実生活と関連づけた単元構成を工夫するなど、学んだことを実生活の場面でも活かそうとする態度を育みます。 ○ 朝の特設タイム(スキルタイム)では、火曜日に国語ドリル、金曜日には計算力を高める算数ドリルを行い、ICTを活用し基礎的内容の定着を図ります。 ○ 専門性をもった教師による、交換授業を行ったり、教科や学習内容によっては学年でしたりすることによって、複数の教師による連携と効果的な指導を行います。 ○ 幼保小連携の一環として、ソフトプログラムを実行します。 ○ すくすくテスト(国語・算数)を担当だけでなく、低学年・級外の職員で隔週金曜に実施します。 ○ コミュニティスクールの組織を活用し、地域の「人・もの・こと」を授業の中で生かす授業づくりに取り組みます。
<p>道 徳</p>	<p>「心づくり」…心の教育の推進 全教育活動を通して、真実を求め、人とのふれあいを大切にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年間授業時数を確保し、道徳の教科書や児童の実態にあった適切な教材を活用し、充実した道徳の時間にします。 ○ 道徳の授業を保護者や地域の人に公開し、道徳教育への理解を求めます。(ふれあい道徳) ○ 地域や家庭と連携し、日常化を図るために、学校・学級便り、懇談などで、めざす子ども像を共有し、児童の道徳性・社会性の育成に努めます。 ○ 地域のお巡りさんに来ていただき、「防犯はがき」「交通安全はがき」などを児童に書かせたり、独居老人宅へ手作りのしめ縄を配布したりする活動を通して、お年寄りへの啓発や思いやりの気持ちを育てます。 ○ 言葉遣いに配慮した全教育活動での「心の教育」に努めます。 ○ 平成30年度からの教科化に伴い、年間指導計画や別葉を見直します。「考え、議論する」道徳科への転換を図り、授業を工夫します。
<p>特 別 活 動</p>	<p>望ましい集団活動の体験と集団の一員としての個を大切に活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学級会活動を充実させ、自分の力をよりよい学級をつくるために役立てようとする意欲的な態度や人間関係の調整力を育てます。 ○ たてわり遊びや交流学習などを取り入れて、異学年とのかかわりの場を広げ、交流を充実させます。 ○ 委員会活動やたてわり遊びを通して、協力して活動したり、問題を解決したりしようとする自主的実践的な態度を育てます。 ○ クラブ活動では、共通の趣味や関心をもとに、協力して活動することを通して、個性の伸長を図るとともに、協力異学年交流を充実させます。 ○ 集会活動では、学習したことを生かした活動を通して、達成感や満足感を味わうことで、集団への所属意識や地域の一員としての自覚を高めます。 ○ 性に関する指導を学年の発達段階に応じて系統的に行います。年間計画の活用がうまくいくように、保健主事、養護教諭が中心となって、指導のアドバイスをを行います。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">総合的な学習の時間</p>	<p>地域のフィールドを生かし、総合的な学習の時間に積極的に取り組み、自ら考え、解決する力の育成</p> <p>① 自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく解決する資質や能力を育成します。</p> <p>② 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動に主体的、創造的、協働的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにします。</p> <p>③ 各教科で身に付けた知識・技能を関連付け、学習や生活に活用することができるようにします。</p> <p>合言葉として “あ”し”の”こ”</p> <p><input type="checkbox"/> あ れ！どうして、なぜかな？ <input type="checkbox"/> し らべよう、きっとわかるよ。</p> <p><input type="checkbox"/> の こそうよ、あらわそうよ。 <input type="checkbox"/> こ んなことわかったよ。つたえよう！</p> <p>○ 総合的な学習の主たる内容</p> <p>3年 まちの自まんとさがそう、お話キッズ3年生</p> <p>4年 二分の一成人式を成功させよう</p> <p>5年 西与賀農業博士になろう</p> <p>6年 環境・平和について考えよう。</p> <p>地域の教育力を生かし、体験活動を通してながら問題解決や探求的な活動をすることで郷土のよさを再発見する学習活動に取り組みます。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">(小) 外国語活動</p>	<p>3, 4年生は「Let's Try！」を中心に外国語活動に取り組み、コミュニケーション能力の素地を養います。5, 6年生は「Hi friends！」及び「We Can！」を中心に外国語活動に取り組み、コミュニケーション能力の基礎を養います。</p> <p>○ 担任とALTとのチームティーチング学習の時間を有効に活用します。</p> <p>○ 担任、ALT、友達などとの交流を通し、英語の表現や発音に慣れ親しむとともに、相手の言葉に耳を傾け、気持ちや考えを推し量ったり、自分の気持ちを伝えようとしたりするなどコミュニケーション能力を高めていきます。</p> <p>○ ALTとの交流を通して、日本や外国の生活・文化・習慣などに触れ、その異質性や同質性に気付くとともに、それぞれのもつよさを味わい、それらを尊重しようとする態度を育てます。</p> <p>○ ICT機器やデジタル教科書を活用し、英語を通したコミュニケーション能力の向上を図ります。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">情報モラル教育</p>	<p>情報モラル教育の年間指導計画をもとに指導を行います。また、外部講師を呼んでインターネットの危険性を学ぶとともに、インターネットを安全かつ適切に利用するための知識を学ぶ機会を設けます。</p> <p>【低学年】</p> <p>学活や道徳の時間を使って指導を行います。日常生活においてどのようなきまりがあるか、危険に自分たちだけで近づかないことなど情報機器に関わることでなく、使う側のモラルを向上させることを中心に指導します。</p> <p>【中学年】</p> <p>デジタルドリルなどのIDやパスワードを各自が所持しているので、それらは個人情報であり、漏らさないように管理することやインターネットを使っていて困った場合は大人のアドバイスを聞くことなどを指導します。</p> <p>【高学年】</p> <p>様々な教科および教科等の授業で情報に関わることもあり、中学年までに指導してきた情報モラルについて折にふれて指導をします。インターネットを利用し情報収集する際に、信用できるサイトなのか等判断する必要があることを指導します。また、他人や社会への影響についても、著作権や自他の個人情報の取り扱いなど、情報を発信する側として注意することの指導を行います。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">教育課題</p>	<p>○ 開かれた学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校で学び、家庭で育ち、地域で伸びる西与賀っ子」のキャッチフレーズを具現化すべく、学校が保護者や地域住民の信頼に応え、「心のふるさと作り」の核となる学校づくりを進めていきます。 ・ホームページ・緊急メール・学校便り・学校掲示板などで情報の発信をするとともに、地域住民へのフ

への対応	<p>リー参観の呼びかけや学校評価アンケートを行い、保護者や地域住民の声や期待を学校経営に生かします。</p> <p>○ 基本的な生活習慣</p> <ul style="list-style-type: none">・生活パワーアップを年間4回実施し、家庭と連携をとりながら、規則正しい生活習慣の定着を図っていきます。・学級活動や保健の時間等を活用して、基本的な生活習慣の定着や食育の充実を目指します。・家庭学習の充実と学力の向上を図るために、計画的な復習や活用力をはぐくむための課題などを宿題として継続的に取り組ませます。さらに、宿題の書き直しにも個別指導を徹底して行います。さらに、城西校区三校で合同開催する「自学がんばる週間」の取組を定着させ、自主学習の質的・量的な向上を目指すとともに、自ら学びに向かおうとする力を育みます。
------	--